

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 上尾市立南中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実 施 内 容

■期 日：平成30年10月23日（火）

■ク ラ ス：2年1組（35名）、2年3組（36名）

■オリンピアン：大黒田 裕芽 先生（ラグビーフットボール）【出場オリンピック/リオデジャネイロ大会】



■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



・簡単な自己紹介の後、オリンピックバリューについて説明し、運動の時間には、「エクセレンス＝一生懸命、全力で頑張る」「フレンドシップ＝仲間と協力する」「リスペクト＝大黒田先生やチームメイトの話をよく聞き、ルールを守る」という3点を意識してほしいと伝え、準備体操へ移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・6班対抗でタグラグビーを実施。①ボールを持ってゴールラインを超えたら得点。②前方へのパスは禁止。③ボールを前に落としたりしたら相手ボール。④タグを取ったら相手に必ず手渡しで返してからプレーに戻る。タグを取られたらタグを付け直し、必ず左右に2つのタグが付いた状態でプレーに戻ることとする。

4. まとめ



・授業の冒頭の3つの約束事をしっかりと守れていたと伝え、次の座学の時間にはこれらがオリンピックとどのように関連しているのかを学ぼうと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・ミーティングや試合前に見る映像とともに自己紹介を行い、ラグビー・フットボールには7人制ラグビーと15人制ラグビーがあることを紹介。
- ・オリンピックシンボルの6色でほとんどすべての国の国旗が描けることや、エクセレンス、フレンドシップ、リスペクトという3つのオリンピックバリューは、人々が人生をより良く生きていくうえで大切な価値であることを話す。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：合唱祭で金賞を獲得するために、意識したいことや頑張りたいことを書き出してみよう。
- 発表：練習から全力で取り組み本番で成功する、一人ひとりが人任せにせず全力で歌う(エクセレンス)、教え合いやアドバイスをし合いクラスのレベルを上げる、このクラスで音楽祭に取り組めることに感謝する(フレンドシップ)、練習に協力してくれた人に感謝の気持ちを持つ、他クラスの発表も目と耳と心で聞く(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・目標を書き出すことでどのように行動すればいいかが明確になり、練習から全力で取り組んだり仲間と協力したり、周囲を尊重できるようになる。皆も学校のイベントや部活等でしっかり目標を立て、夢や目標の実現に向け頑張ってもらいたいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日：平成30年10月24日（水）

■ク ラ ス：2年2組（36名）、2年4組（35名）

■オリンピアン：三好 智弘 先生（水泳・競泳）【出場オリンピック／バルセロナ大会】



■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



・簡単な自己紹介の後、運動の時間は「元気に全力で頑張る」「笑顔で楽しみながら取り組む」ことを約束し、準備体操に移る。
・両手間隔に広がり準備体操をした後、ピンス投げを全2回実施。

2. 準備体操



3. 主運動



・6班に分かれて風船リフティングルーを全3回(各3分間)実施。
・①班毎に手をつないで輪になり、1人1回リフティングをし、時計回りで隣の人にパスする、②足・頭・肩を使い、手は使ってはいけない、③風船は大・中・小の3種類の中から選ぶ、④順番を間違えたり、落としてしまった場合は1から数え直し、一番多く連続で続いた回数を競う。

4. まとめ



・単純なゲームでも、皆が工夫できることを考え、意見を出し合い、チームで協力し、楽しみながら取り組む様子が見られた。これは運動以外の他の様々な場面にも活用できることであり、運動の時間に取り組んだことをしっかりと頭に入れて次の座学の時間に臨んでほしいと話し、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・座学の時間ではオリンピックバリューについて考えてもらい、自分を高める時間にしてほしいと授業の目的を確認。東京2020大会の競技が埼玉県でも開催されることに触れ、三好先生がオリンピックに出場するまでに実践したオリンピックバリューについて説明。

3. グループワーク



発問①：運動の時間に工夫したこと、改善したことや頑張ったことを書き出してみよう。

発問②：運動の時間や日常生活の中で、リスペクトできる言動を書き出してみよう。

発問③：運動の時間にチームを最も盛り上げていた人を選び、印象に残った一言や行動を書き出してみよう。

発 表：ピブスの投げ方を工夫した、相手が拾いやすい位置を考えてパスを出した(エクセレンス)、相手のことを考えながら風船をパスしていた、部活の大会で負けそうになってもペアを励まして逆転した(リスペクト)、名前を呼んだり声掛けしてくれた、失敗しても大丈夫と声を掛けてくれた、失敗をした時にアドバイスをしてくれた(フレンドシップ)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・日常生活に隠れているオリンピックバリューに気付くことができるかどうか、3つのバリューを理解しているかしていないかが、オリンピック選手のように自分を成長させられるかどうかにつながると話す。この授業を通して何か一つでも学んでくれたら嬉しいと伝え、授業終了。



■ 集合写真
2年1組



2年2組





■ 集合写真
2年3組



2年4組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 修了書贈呈

